

4-5 ウエペケレ「アオナハ ウェンカムイ オロワ アウク」解

説

語り手：貝澤とうるしの

聞き手・解説：萱野茂

萱野：わたくしは母と2人暮らしで暮らしておる1人の **aynu** [アイヌ] の少年でした。

母は父が昔に亡くなったと言って、泣きながらわたくしを育ててくれ、そして少し大きくなると、「鹿の仕掛け矢はこういうふうにするんですよ、熊を獲る時はこういうふうには獲るんですよ。」と言いながらいろいろその猟の方法だとか母が教えてくれ、そしてわたくしは成長しました。

で、母の言うのには「あなたの父は猟に出てそのまま **wen kamuy** [悪い神様] いわゆる悪い神様にとられるといいましようか、悪い精神にすぎ替えられて、もう帰ってくることも忘れて山でおるんですよ。ですから決してあの、西の方の沢へは猟に入ってははいけません。」

それは **cuppok** [西] だから西でいいな？

貝澤：うん、そうだ。

萱野：「西の方の沢へは入ってははいけませんよ」と言われながらわたくしは成長した。

けれども1度行ってみたいなど、そんなふうに考えてもおるある日のこと、わたくしは1人でこっそり家を抜け出して、その西の方の沢へ出て沢へ入って行った。そうするとそこで **kuca cise** [狩り小屋] いわゆる一軒の狩り小屋があったので、そこを掃除し、そして火を焚いて、そこへまあ、ひと晩泊まることにした。

武器として持って行ったのは **pon pancu mukar** [小さな大工の鉞] という言い方でアイヌ語で出ていましたが、**panco mukar** というのは同じ鉞でも、「手はびろ」と言って右手1つで使える鉞のこと。アイヌ語は **panco mukar** と言うんですが、その、鉞を自分の寝ておる下へ、こう隠すようにして、何かその悪い化け物が来たらそれで切り付けてやろう

と、そんなふうに考えて、その **panco mukar** を自分の寝ておる下へ入れて、そして黙ってその、耳をすませてその **wen kamuy**、悪い化け物の来るのを待っておった。

寝てしばらくすると、沢の上の方から、一陣の風が吹いて来るように何かその空を飛ぶような、空（くう）を飛ぶような感じでその、しばわら（しばらく（?））風と一緒に来たのをじっとして耳を澄ませて聞いていた。

そしたら、ひょいっとその狩り小屋の中へ入って来たのは人間、体は人間らしい体しておるんですけれども、体つきだけ人間、顔中はもう毛がもしやもしやで本当に人間という感じも1つもしないような化け物のような者が入って来て、黙ってその火を焚いてあるそばへ座って、ハラハラと涙をこぼしながら言うのには「お前はそこへ隠れておることもわたくしは知ってますと。わたくしはあなたの父である **aynu** なんだよと。けれどもお前が **pastetterke** [よちよち歩きする] という言葉で表現していますが、よちよち歩きの、歩きをしておる時に、この沢へ獵に来たらその悪い化け物のその風が自分にあたったと、同時にこういうふうに顔中、体中、何となくその化け物のような顔になってしまった。それから戻る、**aynu** の村へ戻ることも出来ずに化け物の仲間入りして生活しておるんだけれども、お前の母、そしてお前が泣いてばかりおるので、その泣いた涙とかそうしたものがわたくしの方へ送られてくるような状態なって、全然その、いくら **wen kamuy** 悪い神様の国での生活でも、もう生活することも出来なくて、それでなおさら不自由しておるんだと、だからあまり泣かないようにお前の母に言ってくれないかと。もうこれから泣いてもどうすることも帰ることも出来ませんから。」と言いながらその神様……でない、私のその **aynu** の父であったという化け物が山の方へ帰って行った。

それからわたくしはその、まあ **panco mukar** 手はびろを持って、そのまま家へ帰って来たら、母は私の顔色を見て「ああ何かあったな」ということを感づいてあまり話しかけようとしません。けれどもわたくしの方から話しかけて「こういうようなことで父はもうすっかり悪い神様の仲間入りをしておりましたよ。だからその、今からいくら泣いても戻って来ることも出来ないと言ったからこれから泣かずに生活しましょう。そして父もそれによって悪い神様、化け物は化け物らしい生活に入るといっていましたから」と1人のアイヌが言いました。

という **uepeker** [散文説話] です。これ普通の **aynu uepeke** [アイヌの散文説話] でしたね。

でもその aynu uepeker の中でもその pon panko mukar とか、いわゆるその生活の中での道具がそんなような形で表現されておることなどは、何かしらその同じ uepeker の中でもそういう日本ふうな、手はびろと普通言うものはアイヌ語では pon panko mukar というふうに、鉞だけのことは mukar [鉞] といいます、pon [小さい] を付けて pancu [大工] 付けて pon panko mukar という呼び……言い方をしているところがこの uepeker [散文説話] のちょっと違うところかと思われず。uepeker。